

⑤⑤ 新年摺

敷砂のは、き目た、しはつ日かけ
 海山のほひもそうて七五三かさり
 一月や猫もかさりの鈴さけて
 炭の火に事足る庵のむ月かな
 川添の家や柳のひとけしき
 はつそらやゆる、柳に眼のはしる
 春空や雨にならねと気のぬくみ
 一日や家例その見のほとく、に
 船頭に荷をきつて売る和布わかめかな
 ゆかりある人かゆくなり梅もらひ
 去年の灯は森にのこりて初からす
 寒いにもほめやうのあり松のうち
 封切て扇にうけるはつ日かな
 梅咲やかき根にのこるよこれ雪
 初東風や門に柳のあれはこそ
 出代でがわりの袖ひきとめる子供かな
 日おもてをとひくつむやうくひす菜
 梅さくやつかひこ、ろも川手洗
 たぎる湯にのつとさす日や雉子の声
 こつそりと見て話しけり初芝居
 常に目のと、かぬ山やはつ日かけ
 鶏の出てうたふ日かけやわか菜はた
 梅さくやおくれ年始のふたりつれ
 遠里を見あてにゆくやうめ柳
 身にしまぬ風も余寒のわかれ哉
 はつ荷つむ車のうへやうめの鉢
 一月やはや春めきし子ともうた
 見はらしやしほりくはうめ柳

眠 雀
 蓮 阿
 春 山
 燈 眠
 杜 郎
 陽 谷
 桃 石
 六 樹
 榎 湫
 未 昇
 楨 寮
 松 笠
 蓮 里
 舊 溪
 龜 遊
 州 甫
 稲 波
 觀 月
 ま さ 女
 ま さ 女
 ま ん 女
 仙 鳥
 白 露
 露 洒
 旭 露
 露 耕
 萩 露
 黄 菊
 菊 露

⑤⑥ 初老賀摺

老ては益盛
 なるへし
 見習はんかゝる
 古木に梅の花
 野遊ひの言ひ
 こと葉なり梅柳
 老そめは年の
 花さくつほみ哉
 また若きうしろ姿や春の人
 老そめのかはして久し松の花
 降ほと雪にも青む柳かな
 うら町や道もひらけてうめ柳
 別まぎ往へさすや初日のうやくし
 はつ老の亀や尾先の浅みとり
 初老自賀
 老そめて親しく
 なりぬ梅柳

芹 舎
 蓬 宇
 曲 川
 宇 山
 旭 齋
 太 甫
 觀 月
 菊 露
 柳 依
 瓦 金

丙戌のとし 鷗波書



明治十八年 初春 盤鴻書印